

38 東山口地域の歴史と文化…石川依平と伊藤嵐牛

筆 者 服部 光子

東山口地区は東海道53次の掛川宿と日坂宿の間に位置し、昔から旅人の往来の盛んな土地でした。有名な十返舎一九の「東海道中膝栗毛」にも塩井川（東山口地区にあり）という地名が出てきますし、伊達方には一里塚の跡も残っています。

こうした旅人の往来は、地区に東西の文化を齎し、石川依平（1791～1859）や伊藤嵐牛（1798～1876）を輩出しました。

ここでは、東山口地区に残る2人の足跡と、後世への影響について述べてみたいと思います。

1・概略

石川依平（1791～1859）

江戸後期の歌人。通称蔵、惣太夫。号は柳園、樞が本など。遠江国佐野郡伊達方村（静岡県掛川市）に生まれる。神童、奇童ともてはやされ、6歳のときに掛川侯に召されて歌を詠じたという逸話を伝える。冷泉為章、栗田土満に入門。学問的には国学系の色彩が強いが、詠歌は堂上風の温和な作風も目立つ。幕末の歌人としての名声は高く、門人は300人を超えたと伝える。家集『柳園詠草』は明治になって刊行された。〈参考文献〉井倉茂子「石川依平」（『文学遺跡巡礼』4）（久保田啓一） 出典「朝日本歴史人物事典」

伊藤嵐牛（1798～1876）

伊藤嵐牛は、寛政10年（1798）に掛川市八坂に生まれた。幕末から明治にかけて活躍した俳人で、松尾芭蕉の流れを汲む鶴田卓池に入門した。また、和歌国学を石川依平から学んだ。浜松から静岡までに、約300人の門人を養成し、門人の一人に松島十湖がいた。その生家は、嵐牛蔵美術館として開放（事前予約が必要）されている。「磐田市文化協会」編

①松島十湖 出典「デジタル版 日本人名大辞典+Plus」1849－1926 明治時代の俳人、農政家。

嘉永2年3月17日生まれ。榎木夷白、伊藤嵐牛、橘田春湖に師事し、おおくの門人をそだてる。福山滝助に報徳思想をまなび、明治元年生地遠江中善地村（静岡県浜松市）に報徳社を、5年報徳遠譲社を結成し社長。県会議員、郡長をつとめた。大正15年7月10日死去。78歳。名は吉平。

②松島十湖とは（1849～1926）出典「浜松情報BOOK」

明治、大正の時代に、第二の芭蕉といわれ、全国に多くの門弟を持った俳人

1849（嘉永2）年3月17日豊田郡中善地村（現：浜松市東区豊西町）の昔からの農家の家に誕生。6歳から撰要寺で教育を受けた。

父の死を経験し、その後15歳になると俳句に興味を持ち、当時遠州で有名な俳人だった

栩木夷白（とちぎいはく）の弟子となり、雅号を十湖とした。

天竜川の大洪水で田畑や家屋が押し流され、家屋復旧に翻弄されながらも勉強を続け、わずか二年で俳句選者の地位を与えられた。栩木夷白の死後は、伊藤嵐牛（いとうらんぎゅう）や東京の俳人、橘田春湖に教えを受けた

2・石川依平と伊藤嵐牛の生地



東山口地区まちづくり協議会作成

「東山口 みどころ たずねどころ マップ」一部

①国道一号線

3. 石川依平について

日坂に住んでいた大須賀鬼卯の著書「東海道人物志」に石川依平の名前が出てくる。

「冷泉家御門人 名方救 伊達方村 石川為蔵」と 紹介している。



栗丈亭（大須賀）鬼卯編
「東海道人物志」
（1744～1823）

俳諧	書 俳諧	基 俳諧	俳諧	俳諧 狂哥
桐々舎 吐鳳	一日舎 巢婦	連々居 來阜	号四峯菴 桃六	号孤月亭 圓之 一 号 日阪道
松浦淺右衛門	成瀬宗兵衛	平表父左衛門	齋藤又兵衛	齋藤次右衛門

○ 日阪驛

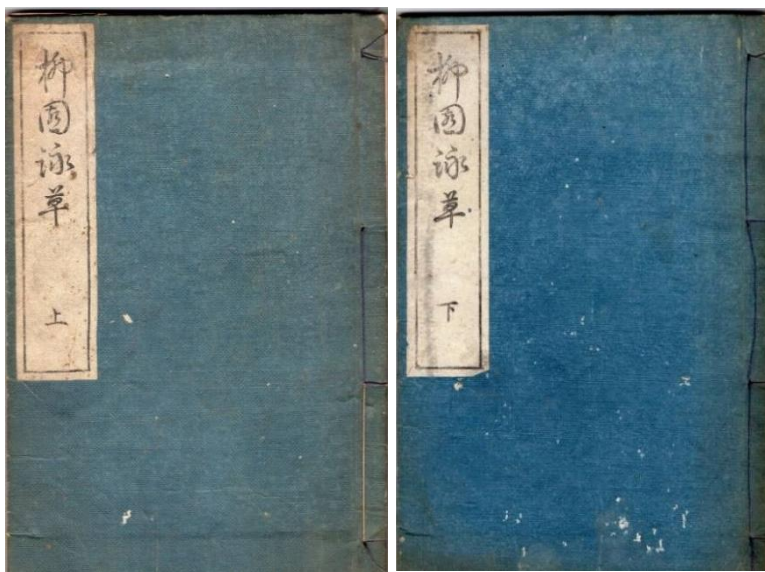
詩文章 俳諧	双六 將基 俳諧	俳諧	易學 相學
号尚丘	名岳 字駿市 号可民	号天古	名顯 字子鳳 号凌嶽
湯日 瀧 嘉惣次	平松十右衛門	国本吉兵衛	赤堀源藏

44

和哥	和哥 國學	國學 和哥	書 俳諧	書 俳諧	雪家画
和哥	名真管	名士磨呂	名貴奥 字子潮 号京陵 兔月	名素風 字古文 号環岡	鶴松堂
同	同	平尾	長池	堀之内	奈良野
栗田美恵子	栗田市右衛門	栗田民部	織部民五郎	山内小文次	川嶋景山

雪家画	生花	生花	俳諧	同
名璋 号明叔齋	号不老菴 南露 河牛	号松雲齋 并柯	号八秋亭 俳諧	影森洞 茶嵐
奈良野	白岩	大頭龍神主	西方村	影森邑
川嶋玉山	白松玄也	白松丹後	山内三右衛門	落合與右衛門

冷泉家御門人
号詠歌
名方救
伊達方村
石川為藏



↑ 東山口・鈴木敏子氏宅に残る「柳園詠草 上下」



↑石川依平の墓の近くの
国道の標識

東山口地区に残る墓と寺の位牌



東山口・本所にある石川依平の墓



古刹慶雲寺（寺ヶ谷）にある
方)

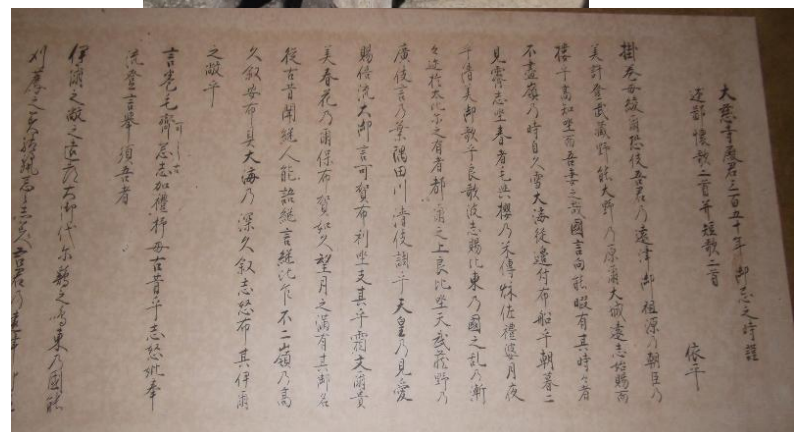
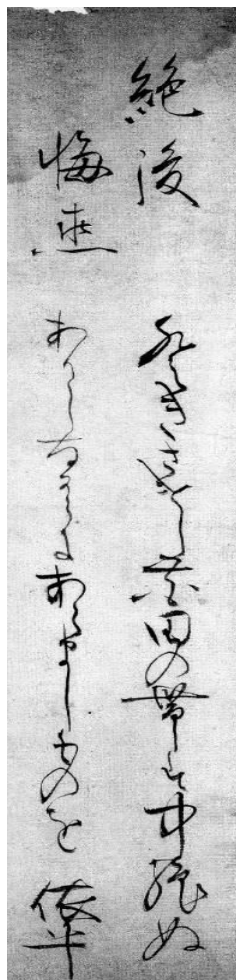


出生地（伊達

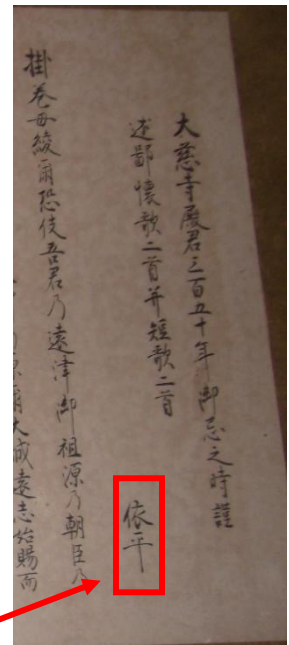
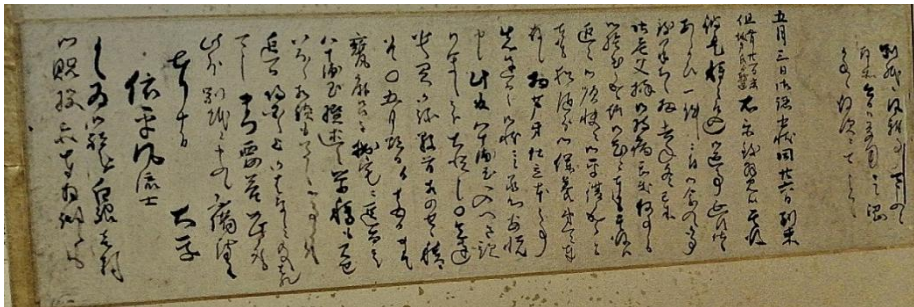
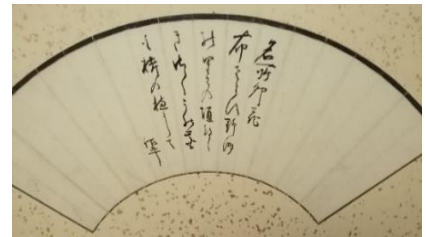
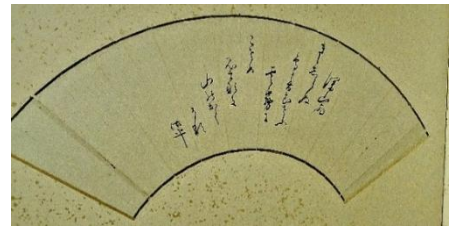
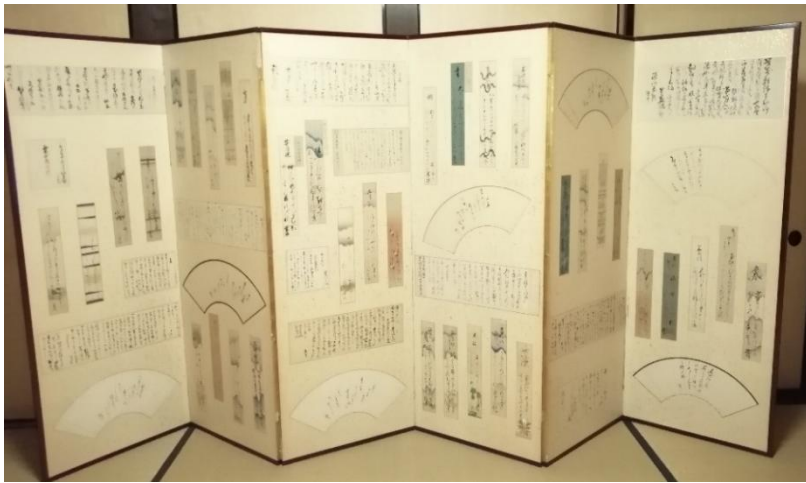
石川家の位牌



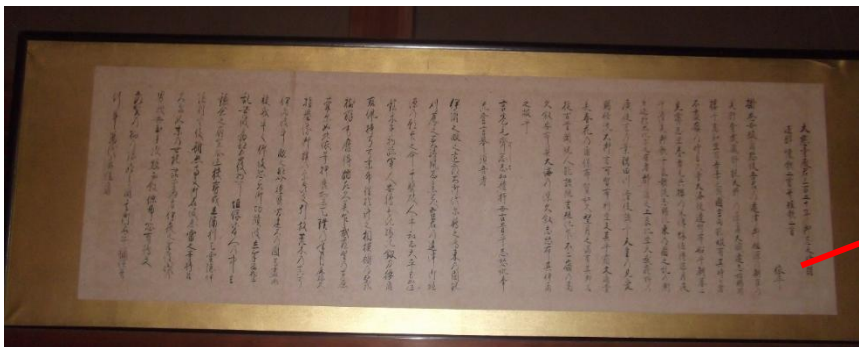
地元民の所有



伊達方 鈴木家の屏風には石川依平の作品も多く貼られている



池下 竹嶋家に残る石川依平の筆跡



依平の文字

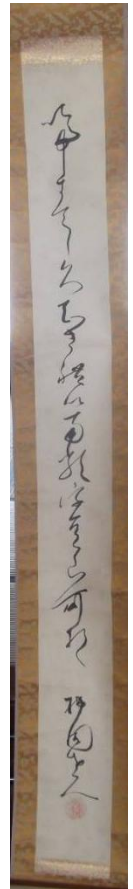
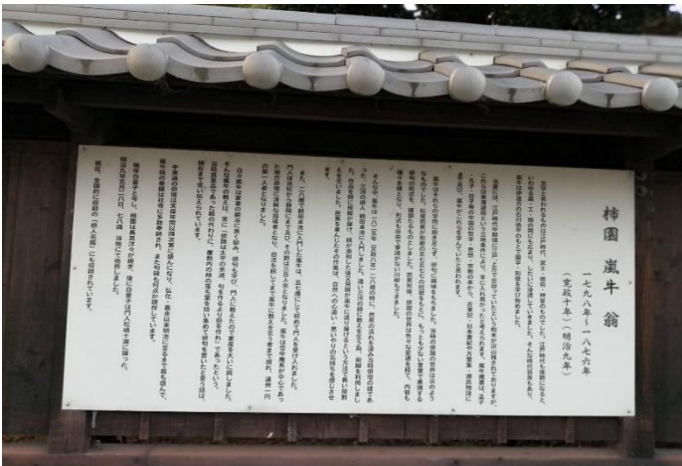


潮神社にある碑→

4. 伊藤嵐牛について



嵐牛俳諧資料館の



5. 2人の文人の影響

東山口地区に33札所のうち3札所がある。第18番新福寺（掛川市逆川149）、第19番慈明寺（掛川市小原子134）、第20番観音寺（掛川市伊達方1420）がそれである。

それぞれの札所には、松島十湖指導による奉額が掲げられている。松島十湖は伊藤嵐牛の指導を受けた俳人であり、その関係で指導したのかも知れない。

3札所の奉額は拙著（新田慎一・服部光子共著）平成27年「遠江33観音霊場巡りと奉額俳句・奉納連歌解説」に掲載。奉額の掲げられたのは、18番札所は明治42年、19番は明治40年、20番は明治39年となっている。以下、それぞれの札所と奉額の写真、掲載部分をしめす。



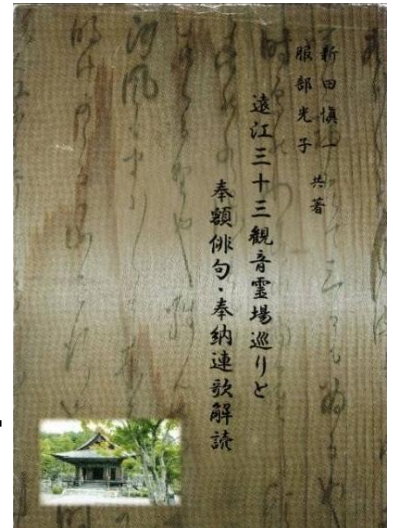
18 番札所 新福寺



19 番札所 慈明寺



20 番札所 観音寺

[illegible]

東山口地区は有名な石川依平と伊藤嵐牛を輩出しました。2人は東山口地区のみならず、当時の文化に広くその影響を及ぼしました。地区に残っている多くの作品（他地区にも多数あるが、今回は触れず）はいかにその影響力が強かったかの証左であると思います。更に、2人の播いた文化の種は、弟子たちにも受け継がれ、更に次代にその種を伝播しまし

た。それはご紹介した地区にある札所の奉額俳句の指導者（松島十湖）が、取りも直さずその弟子であったことからもお分かりいただけると思います。これはほんの一端ですが、もっと調べていくと、彼らの影響がいかに大きかったかお分かり頂けると思います。東山口地区民として誇りに思っています。

尚、別項で東山口出身の久保田陽代氏が「石川依平・伊藤嵐牛の学問と地域の人々の学び」と題し、更に2人の業績を調べ、詳細を記述しております。そちらを読んでもいただければ、更に詳しくお分かり頂けるものと思います。

